



日本まつりに20万人 14° Festival do Japão

日系コリア最大のイベント県人会連合会主催「第14回フェスティバル ド ジャポン(日本祭り)」が、今年もイミグランテ展示場で、7月15日から17日まで「食と健康」をテーマに開催され、好天に恵まれ20万人(主催者発表)の入場者があった。

当会では、昨年一昨年と「三陸わかめうどん」が好評であったが、好天の暑さで約半分に落込んだ事を反省させられた。各スタンドも多売商品の調査も行っていると思え、同じ商品が増えた事もあると思う。

ただ、一生懸名手伝って頂いた、ボランティアの皆さんの期待に応えられなかった事が心苦しい思いである。

この祭りのメインは何と云っても「各県の郷土食」。3年前から一品は「郷土の食」となったが「食」もマンネリ化したように感じた。

東日本大震災写真展コーナー 甦れ美しき日本



「甦れ美しき日本」写真展コーナー

一方「パビリオン」内は、スポンサー、企業、バザー、日本文化、子供等と「震災特別コーナー」が設けられた。

特設コーナー《甦れ!美しき日本》「東日本大震災写真展」は、サンパウロ新聞社がコーディネーターをつとめ、毎日新聞社が写真集、NHK から映像の協力を得て開催された。

100枚にも及ぶ被災地の写真やビデオを食い入るように、様々な思いで見ている姿に感銘した。また子供たちは被災者でありながら笑顔で生きている姿が痛ましかった。この特設コーナー入場者は大震災の恐ろしさ、犠牲者や行方不明者を心配している姿が感じられた。

併設された「県観光」のポスターが展示され、郷土の観光ビデオが特設大型テレビで映し出された。



震災ニュースを食入のように見る人々



写真(上) 岩手県人会コーナー

郷土芸能



大舞台で岩手の「鬼剣舞」を披露

毎年県人会や団体などの歌謡ショー、太鼓、踊り、ミスフェスティバル選出と幅広く披露される芸能。今年特別出演にパラグアイ国ピラポ岩手県人会がバ国県連の依頼を受け、岩手の郷土芸能「鬼剣舞」が出演した。総勢10人で土日と芸を披露し、久々の郷土芸能に惜しみない拍手があった。

引率の西館県人会長は、「芸」は買っても参加し、若い人々に伸びて欲しいと願っていると話していた。



交流のちに

原始林開拓から50年 今は緑の絨毯に

イグアス移住地入植 50 周年式典

記 千田 曠暁



BRASIL 国境 (PARANA 州) FOZ DO IGUAÇU 市から「友情の橋 (PONTE DE AMIZADE)」を渡ると PARAGUAI 国 (人口 700 万余) の ALTO PARANA 県 DEL ESTE 市に入る。首都 ASUNCION を繋ぐ国道 41 キロ地点に移住者が造った町 IGUAÇU 市がある。

8 月 22 日 (月)、雨・気温は 7 度位、この日午前 8 時から日本人会館で「物故者慰霊法要」がカトリック司祭の下で行われた。

この地で日本人が未開の原始林を切開き「汗と苦難と歴史」が詰まっている歴史的祭典は、新スポーツ文化センターで午前 10 時から、井上式典委員長の開会宣言で「入植 50 周年記念式典」が始まった。日本人会、農協、イグアス市の共催で盛大に開催され参加者 1000 人が祝った。

移住地と県人の入植

イグアス移住地は、国際協力機構 (JICA) の前身、海外移住振興株式会社が進成 (9 万ヘクタールと言われる)、1961 年 8 月 22 日にフラム地区 (ラパス移住地) から 14 家族が最初に入植、以後日本各地から移住した。

パラグアイ移民はブラジル初期移民と違い、前記移住振興会から農地を購入し各々が自分の土地に入植した。

それに対して、ブラジルへの初期移住者の大半は、契約労働者として耕地に配耕され、低賃金のために幾ら働いても借金が残った。夜逃げし借金から逃れたと言う話を多く聞いている。

岩手県からも南米に「新しき村・理想郷」を求め、矢巾出身の伊藤勇雄さん一家 (11 名、新婚の鷹雄夫妻が先発移住との事) 県人など 18 家族が入植した。(写真 在りし日の伊藤勇雄氏)

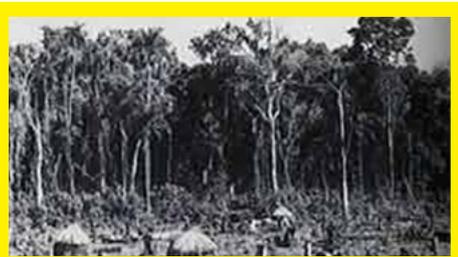


当時の記録で岩手の移住者は、ピラポ 62 家族、アスンシオン 2 家族、ラ・コルメイナ移住地 5 家族となっている。(1972 年広報いわて創刊号、南米移住者名簿住所による)

入植者は原始林を開拓、幾多の困難に耐えながら、作物の試行錯誤を重ね、大豆が適している事に着目。(写真下 パラグアイの原始林)

また従来の耕地を耕す事で生じる、表土流出を防ぐため、不耕起栽培による簡易化で作業も容易になって広範囲の作付けが可能となった。

大豆の需要が増え



エステ市国家警察音楽隊のパ国・日本両国家斉唱、福井一郎イグアス日会会長 (岩手) で祭典委員長は、先駆者の功績を称え原始林が今は「緑の絨毯」となり、大豆や小麦など農産物の一大生産地として確固たる基盤を築き、今後の 50 年は 2 期目の開拓に向けて共に精進したいと力強く挨拶。

先の東日本大災害支援には、パラグアイ産大豆 100 トンを送り、被災地へ 100 万丁の豆腐を届けるプロジェクトを実行中だと報告。

久保農協組合長、ROBERTO イグアス市長と主催者の挨拶。渡部大使、アルトパラナ州知事など来賓の祝辞、達増岩手県知事、高知県知事、北海道知事などの祝電が披露された。記念品贈呈、各功労賞、感謝状、特別賞などの表彰があり、工藤忠利 (岩手) 式典執行副委員長の閉会の挨拶で式典を閉めた。

祝 賀 会

式典会場がそのまま祝賀会場となり、1000 人分の食事が婦人部の手作り料理やシュラスコが振舞われ 50 年の節目を祝った。

また、子供達の舞踊、パ国民族舞踊、岩手の郷土芸能「岩崎流鬼剣舞」、太鼓と芸能アトラクションがあり、祝典に花を添えた祝賀会であった。会場では久しぶりの再会を喜び交流が展開され、ブラジルから団体に参加した中に知人や、県人の小原アヤさん、田中キヨさんがいた。また、ピラポ県人会の西館公世会長さんはじめ、佐藤さんご家族など会員の皆さんとお会いし交流を深めた。



(写真 伊藤鷹雄氏の庭にある大木の根っこ)

るにつれ移住地も安定し余裕が出て来た。

社会状況が形成されると共に、日本人会、農協、日本語学校、病院などを立上げ、結束し各種事業を行っている。主要産物は大豆

であるが、裏作として小麦、菜種などの農産物で大成。現在世界第 4 位の大豆輸出国となった。牧畜も盛んになり、本場のアルゼンチンからも引合いがあると聞いている。今では隆盛を誇れる一大移住地となった。

「岩手県人」の台頭は目覚ましく、福井一朗日本人会会長 (写真)、農協役員、各種事業の諸役員を占めているようで、また菅原佑介さん (矢巾出身) は最近まで日本語学校校長を務め、教える也大勢いるという。県人として嬉しく感じた。

イグアス移住地の発展は、ピラポ移住地と共に日本政府の窓口となった、JICA や移住者を送り出した各県の大きな援助があった事を忘れてはならないだろう。

式典には入植者やその子弟、各移住地在住者、またブラジル・日本からも慶祝団など約 1000 名が参加し 50 周年を祝った。

また、記念式典前後には「EXPO・IGUAZU」はじめ、「物故者慰霊法要」は、カトリック、仏式と 2 回、「物産展」など記念行事が行われた。因みにイグアス市の人口は 8,700 人で、内日本移民や子弟は 200 家族の 700 人、日系人口は 10% 弱であるが、経済力は 9 割を占めているという。



8月21日(日)サンパウロ午前9時発、パラグアイ国デルエステ空港(グアラニ)には3時間も遅れて着。空港では私達を伊藤鷹雄県人会長ご夫妻が出迎えに来ていた。

「EXPO・IGUAZU」会場へ直行。岩手県人会スタンドではカレーライスや寿司等を販売していた。昨年もお世話になった武田さん、工藤さんが待ちかねていた。ここで伊藤さんの兄で盛岡在の東雄氏と、岩手県立短期大学準教授三須田喜暢先生、伊藤さんの弟源一郎さんを紹介された。



三須田先生はパ国農業事情調査の為、東雄氏と一緒に訪れたとの事。伊藤源一郎さんはアフリカのガーナに出張していたが入植祭に帰国。岩手スタンドで様々な人々と出逢い、園田県連会長(鹿児島県人会長)や、鹿児島県立大学長並びに学生さん達と交流の機会があった。

また伊藤孝雄氏の長男勉さんと妻のアンナさんが、家畜の飼料や薬品スタンドを出店していて、講習会などが行われていた。

8月23日(火)「イグアスの滝視察」早朝、伊藤勉さんが私たち夫婦、伊藤東雄氏、三須田喜暢氏を誘い滝視察の途中、国境の町デルエステ市の両替店に入った。当日のレートは1米ドルが3840グアラニであった。昨年の1米ドル約5000グアラニから比べると、グアラニ高になったようである。ブラジルも長くレアル高が動かないが・・・(8月中旬頃から比較すると現在レアルは20%安となっている)



国境を繋ぐ「友情の橋」を通過しブラジル側へ。はじめにブラジル、パラグアイ、アルゼンチンの分岐点(川で分かれる、三角塔)を視察。二日振り続いた雨でパラナ河は水量が多いように見えた。

滝の遊歩道を進み雨で増水した大小の滝が黄色く濁っていた。大量の水が流れる滝では川面から飛沫が上がってきた。奥へ進み大滝



の水量は物凄く豪快さを感じた。初めて訪れた三須田さんは、大滝から流れ落ちる滝下の遊歩道を進み、水量豊富な滝で写真を撮りまくっていた。



「歓迎会」午後6時から入植祭に参加した、日本やブラジルから参加者の合同歓迎会が日本人会館で行われた。福井一郎日本人会長(伊藤勇雄氏の孫)は、今朝仏式により「物故者」の法要が行われた事を報告。今夕は岩手、北海道、山形、ブラジルなどから祝典に参加した方々の合同歓迎会ですと挨拶。婦人部手作り料理とシラスコが振舞われた。

この会場で、奥州市江刺区大蔵山光明寺の住職「佐藤浩昭」さんや、盛岡の吉田重雄氏から Carlos さんがブラジルにも寄ると連絡があった、岩手県物産の海外輸出会社勤務で、盛岡の女性と結婚したパラグアイ人「Carlos Gonzales」さんと出会った。(写真右がカルロスさん)

彼は子供の頃から移住地の日本語学校で、菅原祐助校長先生(紫波郡矢巾出身で昭和42年渡パ、前県人会長)に日本語を習い、10年前イグアス県人会から研修生として岩手県で学んだ。当時ブラジル県人会から初めてブラジル人研修生として学んだ「サムエル」君と同期だったと話していた。



8月24日(水)「第二岩手の森」へ植樹が急遽決まり朝8時菅原さんの息子さんの案内で「砕石場」近くの交流の森で記念の植樹を行った。

2008年当県人会50周年の折、パラグアイへ寄せられた達増県知事はじめ慶祝団皆さんが「第二岩手の森」に記念植樹をした場所であった。



植樹者の立札が3枚ほど残っており、それぞれの木はすくすくと伸びていた。日本からの伊藤さん、三須田さんなどと私も小さな苗木を植えた。また、何年かしたら大きく育っている事を願いつつ。近くには「交流の森」、「どさんこの森」、「高知の森」などの立て札があった。

次いで、日本人会事業の大きな収入源になっている「砕石場」

を視察した。広大な砕石場では何層にも分けて上からピストンで砕き落とし、ダンプカーが噴石場まで運び噴石機が砕いて、大小の砂利状や砂状の石が仕分けされベルトコンベアーから降り注ぐ。ショーベルカーが仕分けされた山のように積み重ねられた石置き場に貯められる。



お昼まで時間があると言うので、勉さんが私達を彼の「牧場」へ案内した。彼の農場は父鷹雄さんの農場手前にあり、主に大豆を栽培(昨年か一昨年にヘクタール当たりの収穫量大で表彰を受ける)



今は裏作に小麦や敷肥となる燕麦(エンバク)が植えられ、新たに牛飼いも始め約200頭の牛を飼っていた。

《伊藤さん耕地内の学校は昨年教師不足から閉校していたが、新しい先生を迎え学校を再開、地元の生徒達が通っていると報告があった》

「終わりに」昨年のピラポ入植50周年、ピ県人会50周年への参加、今回のイグアス入植50周年祭と、機会あるごとに海外県人会同士との交流によって「絆」を深めていく事が大事である事を考えさせられた。

会員交流誕生会賑やかに

8月28日(日)第47回「会員交流誕生会」が正午から行われた。多田マウロ副会長の開会、先没者への黙祷、千田会長はパラグアイ国



イグアス入植 50 周年祭 参加報告を行った。藤村光夫相談役の乾杯で 会員持寄り料理と、県人会でうどんを作り振る舞い食事が始まった。



前日パラグアイからサンパウロ、米国経由で帰

国の筈だった、岩手県立大学三須田喜暢先生(博士)は、米国にハリケンが北上中で欠航となり、2日後の29日になったと連絡が入り、県人会交流会に参加して頂いた。また、この日は神奈川在の賛助会員である丹野清人首都大学博士、夫人の玲子博士(立教大学)や2人の子供さん、大阪市立大学の島和博教授と多彩な学者も交流関係から出席された。

食後、雷神太鼓ショーやビンゴで楽しみ、5月から8月誕生者をケーキを囲んで誕生会が開かれた。カラオケなどもあり楽しい一日を過ごした。

桜並木 名所となるか



7月23日リベルダーデ区ファグンデス街で、市が進めている街路緑化の一環として、カサビ市長を迎えて「桜」の植樹式が行われた。同街路には雪割り、ヒマラヤ、台湾種などの桜が植えられていた。

リベルダーデ大通りでは先ごろ歩道の張替えや植樹がなされ、サンジョアキン街は寸断されていた歩道に新たな樹が植えられ合計700本近く植えられたと云う。今後、樹木が管理され緑豊かな街路樹となって欲しい事を祈る。



七夕まつり 短冊はポ語



7月23日24日と恒例の第34回七夕祭りが、宮城県人会と商工会の共催でリベルダーデ広場から、ガルボンブエノ街で行われた。

今回の七夕飾りは何故か少なく感じた。願い事を吊るす「短冊」は殆ど100%ポルトガル語だった。これ

も日本移民103年。時代の流れかも・・・ また、短冊は日本人や日系人よりブラジル人が多く吊るしているようで、ブラジル社会に七夕文化が浸透している証で喜ばしい事である。



Dreams Come True

ニューヨーク・大連・サンパウロdate...世界10カ国
二戸の酒米「ぎんおとめ」で造られる
二戸の地酒 南部美人は世界へはばたく。



株式会社南部美人
岩手県二戸市権田字上町13
TEL 0195-23-3133
FAX 0195-23-4713
E-mail: sake@nanbubiyu.co.jp
ホームページ: http://www.nanbubiyu.co.jp
●お酒は20歳になってから

南部美人を飲めるサンパウロのお店

J UN SAKAMOTO	TEL 3088-6019	SHINTORI 新鳥	TEL 3283-2455
A-1	TEL 3145-1833	KINOSHITA 木下	TEL 3849-6940
BUNDDHA BAR BRASIL	TEL 3044-6181	SHAYA	TEL 3079-5020

らーめん和	TEL 3145-1833
阿 咩	TEL 3145-1833
藍 染	TEL 5080-3300
ら ん 月	TEL 3085-6915

7月2日 定例役員会 議題 第14回日本祭、義援金中間報告、イグアス入植50周年 会員交流誕生会、会館使用状況
 5 西館世公ピラポ県人会会長より、鬼剣舞日本祭り参加について種々依頼あり
 7 日本祭り特別コーナー「大震災被災県」委員会に千田会長出席
 8 菅原正義平泉町長より、平泉文化遺跡が世界遺産登録お祝いへの礼状受信
 11 盛岡の小川澄子さんから、岩手日報刊「平成の三陸大震災」画報の送付あり
 13 県交流協会より賛助会費納入表、並びに送金の知らせ
 14 陸前高田出身の大川玲子さん来館（ご主人が矢崎産業勤務）
 15,16,17日 第14回フェスティバル ド ジャポンに出店
 18 パラグアイ国ピラポ県人会、鬼剣舞に出演した一行10名来館
 19 高橋己之吉氏(90歳)腎臓悪化で13日死去と家族から知らせ
 20 県人会ニュース184号を国内外に420部発送
 21 高橋昭二郎(紫波町出身、昭和9年渡伯)相談役急逝の報あり。
 22 高橋氏のお通夜、葬儀に県人多数出席
 23、緑化運動ファグンデス街でカサビ市長を迎え行われた桜植樹式に会長出席
 25 イグアッペ高橋義明氏より託された餅米1俵(30kg)を、柗沢千秋氏の弟さんから受領

26 São Paulo For Japan より、東日本大災害復興支援チャリティコンサートへ後援依頼あり
 28 県連代表者会に会長出席
 8月4日 武田一幸イグアス県人会事務局より、入植50周年祭について受信
 8 達増拓也岩手県知事より「平泉の文化遺産」登録「祝辞」への礼状受信
 10 吉田恭子さんから近況、元岩手県副知事高橋介氏急逝の報あり(行年69才)
 13 8月度定期役員会 議題は日本祭り報告と反省、47回会員交流誕生会、イグアス入植50周年、県人会今後の予定など
 15 吉田重雄氏、渡邊勉氏へ近況を報告
 21 千田会長夫妻イグアス移住地入植50周年祭参加のため出張
 22 日より24日まで平野マリア監査役が事務代理を行う
 25 会長県連代表者会へ出席
 ☆ 岩手日報社より「平成の三陸大津波」特集号の送付あり
 ☆ デルタ航空営業部長の横沢氏来月所用で来伯と連絡
 27 沖縄県人会創立85周年記念式典に会長出席
 28 第47回会員交流誕生会開催 約80名が参加し盛会だった
 29 三須田教授と盛岡から岩手県物産の海外市場調査に来伯したカールロスさんが来訪し懇談 午後から藤村相談役が市内を案内。

会費納入者名（敬称略、年額 R\$75.00）

会費納入ありがとうございます

7月 山田幸孝(賛)、村川猛春(新・釜石出身)、及川益夫、児玉勲(賛)、服部葉子、中村修于(新・福岡県出身)、鷲見和弘(賛・岐阜県出身)、矢野久(賛) 8月 宇佐美克己(賛)、高橋宏ニカルロス、高橋己之吉、村松弘一、児玉道義ミルトン、丹野清人(賛、日本)、9月 鈴木豊昭(賛) 2月納入の武田栄一さんの名前を追加しました。

賛助会費納入者名（敬称略）

会費納入ありがとうございます

齊藤好弘(盛岡,10年度)、小関浩喜(金ヶ崎,10年度)、田口忠(金ヶ崎,10年度)、清水誠勝(新・山田,10年11年度)、坂下亭(北上,10年度)、山澤順三(新・矢巾,11年度)、真崎良平(新・滝沢,11年度)、吉田重雄・英子(盛岡,11年度)、和賀武耕(奥州,11年度)、伊藤栄喜(北上,11年度)、桑島治任(金ヶ崎,11年度)、千田功平(一関,11年度)、久慈浩介(二戸,11年度)、鈴木直志(盛岡,11年度)、菊地光明(山田,11年度)、松本トミ(山田,11年度)、渡辺勉(花巻,11年度)、熊谷澄子(盛岡,11年度)、高橋典克(花巻,11年度)、坂本洋(盛岡,11年度)、菅原圓雄(花巻,11年度)、武藤千賀子(盛岡,11年度)、清水康宏(盛岡、1年度)、沼崎喜一(山田,11年度)、渡邊史朗(盛岡、11年度)、増田稲子(神奈川,11年度)、佐々木正徳(盛岡,11年度)、一戸和(盛岡,11年度)、佐々木栄洋(遠野,11年度)、小田島栄(北上,11年度)、遠藤勇(八幡平,11年度)、高橋量平(八幡平,11年度)、千田良子(金ヶ崎,11年度)、高橋洋介(北上,11年度)、佐々木義久(盛岡,11年度)、齊藤好弘(盛岡,11年度)、岩船信一(神奈川,11年度)、佐藤武(金ヶ崎,11年度、☆ 武氏は4月6日104歳で天寿を全うされました)、和美宏幸(盛岡,11年度)、田口忠(金ヶ崎,11年度)、山折昭磨(奥州,11年度)、佐藤節夫(金ヶ崎,11年度、武氏息子さん)、東根千万億(盛岡,11年度)、

☆ 2011年7月13日(財)国際交流協会からの連絡による。

寄付・寄贈 7月 橋本吾朗 文房具、青空学級 R\$100.00 酒1本、佐々木憲輔 お茶菓子、高橋義明 餅米1俵、8月 塚田良子 お皿類約100枚、橋本吾郎 ポット(2L)、お茶菓子、

図書寄贈 7月 村川猛春 12冊、無名3冊、無名5冊、小川澄子1冊 8月 坂本恵美子4冊、中野光雄1冊、無名4冊、岩脇恵理子20冊、坂本恵美子8冊、無名2冊、渡辺はつひ7冊、岩手日報社1冊、

岩手文庫現在の総数 18,372冊、(9月26日現在)

図書利用 7月 801冊、186名、8月 725冊 167名

来館者数 7月 475名、8月 464名、一階利用者は含まれておりません。

★ 高橋己之吉氏(行年90才、江刺市米里出身、昭和11年11月渡伯)は腎不全のため、7月13日永眠されました。49日法要は8月28日行われました。

★ 高橋昭二郎氏(行年84才、紫波郡紫波町出身、昭和9年渡伯)相談役は7月21日朝急逝され、翌22日コンゴニア墓地に埋葬されました。氏は県人会諸役などと副会長を務めました。またブロック日会の会長時、日本語教育の普及を果たし、移民100周年委員会から感謝状を授与されております。49日法要は東本願寺にて9月3日行われました。

★ 高橋 義見氏(行年92歳、花巻太田出身、昭和8年渡伯・県人会相談役)は、8月27日夜急逝されました。49日法要は10月12日16時から Av Paula Ferreira 1133 Piqueli inf; 3976-5771 で行われます。お亡くなられた方々のご冥福を祈念致します。

★ 高橋洋介氏(行年69才、岩手県元副知事(増田知事当時)は、8月9日急逝されました。氏がブラジル県人会館購入時の県農政部にいた。イグアス移住地入植40周年祭の際初来泊され初めて県人会館を訪れた。来伯の日が満60才になられ、歓迎と還暦のお祝いを共に祝った。

「9月1日の高橋洋介さんの偲ぶ会には1000人を越す参会者が集い知事以下6人の弔辞で、その業績を偲び お別れをしました。引き続き行われた法事にも500人が出席、それぞれの職場ごとに在りし日の彼を思い出しながら故人を偲びました。沖縄石垣島からの参列者や沖縄の太鼓など、民間人になってからの交流に心血を注いだ生き様をまざまざと思い起こさせたひと時でもありました」(盛岡吉田恭子様より)

料理講習会



9月18日(日)午前10時から「婦人部企画」として、「寿司の作りかた」講習会があり53名が受講した。
 講師は婦人部長の平野マリアさんは、用意された小冊子を配布。始めにシャリの作りかたから多様な寿司の作りかたを説明しながら作った。受講生は質問しながら写真撮影をとりながら26種類の寿司が出来た。
 一通り作業が終わった後、講習生一人ひとりが好きな寿司を作り、出来上がった寿司を皆さんでつまんで試食会を行った。
 (写真 左講習風景、下左 各々が好みの寿司を作る受講者、下右 出来上がった多種の寿司))



デルタ航空(本社アトランタ)から横澤氏来館

9月16日、世界第2位の大手航空会社デルタ航空で国際営業部長を務める横澤昭徳氏が、日米便路線拡大と宣伝のため来伯。同氏はアメリカ勤務で盛岡出身であり県人会訪問を予定していた。
 県人会訪問を「懐かしく岩手に帰ったみたい」と感想を述べ。図書室を見て次回は自分の蔵書を持って来たい。日本への訪問は日系搭乗員が居る、アトランタ経由が待ち時間が少なく有利ではないかと話していた。これを機会に相互の交流を続け協力したいと語った。



県人会を訪れた横澤氏(中央)
 左が千田会長、右が藤村相談役

岩手出身の菊地氏日伯援護協会新会長となる

サンパウロ日伯援護協会4月の定期総会で、県人会で4期会長を務めた菊地義治氏(71才、一関市出身)が新会長になった。

援護協会は会員1万3千人、職員2000人以上を抱える大所帯で、昨年は創立50周年で念願の福祉センターを完成させ、日本人移住者の援護団体として日伯友好病院はじめ、3つの福祉(センター内、イタケラ及びグアルーリョス市との連携による診療所)及び、4つの養護老人ホーム(サントス



厚生ホーム、カンボスさくらホーム、スザノ・イペランジャホーム、あけぼのホーム)、デイ・サービスの実施を計画、神障害社会復帰センターやすらぎホーム、サンパウロ市と一緒に地域の児童及び高齢者に対する社会教育の活動をしている奄美事業所、さらに、ブラジルにおいても療育指導法が注目されている自閉症療育学級(青空学級—PIPA)など11の事業所を有する団体。

援護協会は公益団体としてSUS病院建設(統一保険システム)をサンミゲル、アルカンジョ市と合意。病院建設は2期に分かれ、一期3年計画で、1期目に入院施設を整えた病院(40床)を建設、内科、外科、小児科、産婦人科を予定している。

14° FESTIVAL DO JAPÃO



Maior evento da comunidade nipo-brasileira, o Festival do Japão, realizado anualmente pela Federação das Associações de Províncias do Japão no Brasil – KENREN, aconteceu no Centro de Exposições Imigrantes nos dias 15, 16 e 17 de Julho

e recebeu este ano mais de 200 mil pessoas nos 3 dias de evento. Como uma das atrações do evento, tivemos a participação



da dança tradicional de Iwate, "Oni Kembai", apresentado pelo Iwate Kenjinkai de Pirapó (Paraguai), que foi muito aplaudido pelo público presente. O grupo de 10 pessoas veio de ônibus do Paraguai, viajando por mais de 20 horas, OTSUKARESSAMA DESHITA. Na gastronomia, nosso Kenjinkai participou mais uma vez, com a venda de gyoza e wakame udon. Mesmo sendo inverno, fez muito calor no final de semana, não contribuindo para uma boa venda de Udon como no ano passado. A diretoria mais uma vez agradece a todos que direta ou indiretamente nos ajudaram na participação de mais um Festival do Japão.



Foi realizado no dia 28 de Agosto, nosso segundo encontro de associados deste ano. Comemoramos o aniversário dos nascidos no mês de maio, junho, julho e agosto.

Neste dia, após longo período, tivemos a apresentação do Grupo Raijin Taiko. Os novos alunos se apresentaram pela primeira vez ao público e trouxeram seus familiares para prestigiar a

47ª CONFRATERNIZAÇÃO DE ASSOCIADOS E ANIVERSARIANTES

apresentação. Realizamos também o nosso tradicional Bingo com farta distribuição de prêmios.



Foi realizado no dia 18 de Setembro, curso de Sushi, sob orientação da nossa associada Maria Hirano que ensinou como preparar 26 tipos diferentes de sushi.

CURSO DE SUSHI

PROFESSORA MARIA HIRANO

O curso contou com a participação de 53 pessoas, que além da teoria, puderam também por em prática o que aprenderam.

No final, os participantes degustaram os sushis que ajudaram a preparar.



ANUIDADES RECEBIDAS

(Fevereiro) Eiichi Takeda
(Julho) Takayuki Yamada, Takeharu Murakawa, Masuo Oikawa, Issao Kodama, Yoko Hattori, Ossao Nakamura, Kazuhiro Sumi, Hisashi Yano
(Agosto) Katumi Usami, Carlos Koji Takahashi, Minokichi Takahashi, Koichi Muramatsu, Milton Mitiyoshi Kodama, Kiyoto Tanno (Setembro) Toyoki Suzuta

SÓCIOS COLABODORES DO JAPÃO

Yoshihiro Saito (2010-2011), Kouki Koseki (2010), Tadashi Taguchi (2010-2011), Seisho Shimizu (2010-2011), Tooru Sakashita (2010), Junzo Yamazawa, Ryohei Mazaki, Shigeo Yoshida, Eiko Yoshida, Bukou Waga, Eiki Ito, Haruhito Kuwashima, Kouhei Chida, Kosuke Kuji, Naoshi Suzuki, Komei Kikuchi, Tomi Matsumoto, Tsutomu Watanabe, Sumiko Kumagai, Norikatsu Takahashi, Hiroshi Sakamoto, Maruo Sugahara, Chikako Mutoh, Yasuhiro Shimizu, Kiichi Numazaki, Shiro Watanabe, Ineko Masuda, Masanori Sasaki, Ryo Ichinohe, Yoshihiro Sasaki, Sakae Kodashima, Isamu Endo, Ryohei Takahashi, Yoshiko Chida, Yousuke Takahashi, Yoshihisa Sasaki, Shinichi Iwafune, Takeshi Saito, Hiroyuki Wami, Akimaro Yamaori, Setsuo Sato, Chimao Azumane.

PRÓXIMOS EVENTOS

Excursão Caldas Novas (Bonenkai Kenren) Organizado pelo KENREN

Data : 24/25/26/27 de Novembro

Valor : R\$ 482,00 por pessoa – Reservas no Kenjinkai

MOTI

Venda de shiro moti em pacotes de 500 g (antecipado R\$ 8,00 no dia R\$ 10,00)

Data : 10 de Dezembro (sábado)

Bonenkai 2011 e Confraternização de Associados

Data : 11 de Dezembro (domingo)

Sistema Motiyori, bolo e bebidas Kenjinkai

NOTA DE FALECIMENTO

- Minokichi Takahashi, faleceu no dia 13/07 aos 90 anos em São Paulo Capital. Era natural de Esashi-shi, Iwate-Ken
- Shojiro Takahashi, faleceu no dia 21/07 aos 84 anos em São Paulo Capital. Era natural de Shiwa-cho, Iwate-ken
- Yoshimi Takahashi, faleceu no dia 27/08 aos 92 anos em Mairiporã-SP. Era natural de Hanamaki-shi, Iwate-Ken
- Yousuke Takahashi, faleceu no dia 09/08 aos 69 anos em Morioka. Foi vice governador de Iwate-Ken.

ブラジル岩手県人会ニユース 175号 2011年10月発行

TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020

ブラジル岩手県人会

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil



県人会今後のプログラム

☆ 11月24日から27日まで「カルダスノーバの温泉」旅行があります。費用はR\$ 482,00（案内済）
申し込みは県人会へどうぞ。

☆ 12月10日（土）餅搗き大会 お正月用 1袋 500g 前売りR\$ 8,00 ご注文を賜ります。申し込みは県人会へ 当日はR\$ 10,00 お手伝いをお願いします。

☆ 12月11日（日）「忘年会と第48回交流誕生会」が、午前11時から行われます。食事は持ち寄りをお願いします。飲物、ケーキ、お雑煮など県人会で用意します。

☆ 2012年「新年会・総会」は1月22日（日）予定しております。

お断り 県人会パソコンに重大なバグが入り、会報の発行が大変遅れた事をお詫び致します。その為お知らせが一部遅れて届きます。（編集子）

お知らせ 今月後半から県人会ホームページを順次更新しますのでホームページもご覧下さい。

心の快復を願う！ 「独り言」

3月11日の忌まわしい大震災から半年が過ぎました。被災地の皆さんは大きな「傷あとから」這い上がろうと、必死の努力を重ねている事と思います。

漁業関係者は、日本各地の応援や支援を受けながら必要な船、魚具などを共同で活用。一步一步と前へ進んでいる心温まるニュースを聞く。そのような中で、生活必需品などを取り扱うスーパーや商店など仮設店舗で営業を始めた、再興を計るにも住宅や店舗のローンがあり二重債務また職場が被災し職が無いなど、先が見えないと云った事に苦汁の選択を迫られていると思う。

一方日本全国や海外から日赤に寄せられた「尊厳義援金」が、被災者に半分近くが支給されていないと云う、これでは「支援者の気持」が伝わらないのでは・・・

殆どの地方行政は、復旧復興の青写真案が出来たところも多いと聞く。だが、政府案や予算などがの処置が決まらず、被災地では右往左往しているのが現実ではないだろうか。

大津波で浸水し住居や店、職場が被災した地域から高台に移転するには、土地が無い不便だと云った声を聞くがどうするか。

新防潮堤計画案では、震災時の堤防と同じか低い案が出ている。近い将来必ず起こりうる震災「100年の計」で想定外の津波にも耐えうる大堤防を作ってはと思う。流されたある地方の防潮堤を見ると土台が地下と連結されて無い、大きなブロックを置いたような防潮堤では役に立たないと考える「独り言」と言えるだろうか。

県人会では今後も支援の気持ちを忘れませんが、先が目ない被災地の皆さんに、先ずは「心の快復」を祈念致します。